

いちご棚式育苗システムの育苗用培土							
<p>【要約】 いちご棚式育苗システムで用いる小型ポット用培土としては、パーミキュライト、ピートモス、ボラ土及び炭を混合した培土が適している。この培土は、透水性と保水性に優れ、従来のポット育苗と同等の収量が確保出来る。</p>							
園芸研究所・野菜花き部・野菜品種研究室					連絡先	092-922-4111	
部会名	園 芸	専 門	栽 培	対 象	果菜類	分 類	普 及

【背景・ねらい】

いちご育苗の省力化のために開発した棚式育苗システムでは、内容量が従来の12cmポリポットの1/6の115ccと、極めて小さい小型硬質ポットを用いる。この小型ポットを利用して育苗する場合の培土として、慣行のポット育苗法と同等の収量が確保出来、しかも透水性と保水性に優れた軽量培土を選定する。

【成果の内容・特徴】

- ①パーミキュライト、ピートモス、ボラ土及び炭（ブラックワン）を混合した軽量培土を用いると、小型ポットでの育苗が容易で、従来の12cmポリポット育苗と同等の苗が養成出来る（表1）。
- ②軽量培土に用いるパーミキュライトの種類は、みかけ比重0.12、pH6.5、CEC10のTGが適し（表1）、パーミキュライト、ピートモス、ボラ土及び炭の混合比率（容量比）は4：3：1.5：1.5が早期収量及び総収量とも多く、対照のポット育苗の苗と同等の収量が確保できる（図1）。

【成果の活用面・留意点】

- ①省力、軽作業化されたいちご育苗技術として活用できる。
- ②軽量培土をポットに詰めた後、十分かん水し水とよくなじませておく。また、親株床で培土が乾燥する場合には、小型ポットへ頭上かん水を行う。
- ③苗の養成期間中は、ポット育苗と同じ液肥を数日おきに施用する。

[具体的データ]

表1 棚式育苗に用いる培土の違いと苗の生育 (平成4年)

ポット	育苗培土	葉柄長 cm	葉身長 cm	葉幅長 cm	クワン径 mm	葉色値	備考 (培土の構成割合: 容量比)
小型ポット	TG-1	17.3	7.0	5.9	11.2	27.5	TG1,2,3は、パーミキュライト(TG)4:ピートモス3:ホラ土1.5の培土に、炭をそれぞれ0,1.5,3の割合で混合した培土
	TG-2	17.6	6.9	5.4	12.8	23.3	
	TG-3	17.2	6.9	5.6	9.4	24.1	
トット	PA-1	18.4	7.2	5.8	10.2	27.6	PA1,2,3は、パーミキュライト(PA)4:ピートモス3:ホラ土1.5の培土に、炭をそれぞれ0,1.5,3の割合で混合した培土
	PA-2	16.7	6.4	5.3	10.6	22.6	
	PA-3	19.3	7.0	5.9	9.3	27.0	
慣行育苗		19.6	7.2	6.8	10.3	25.2	粒状培土6:真砂土3:もみがらくん炭2

注) ①調査日: 9月10日
 ②測定葉位: 新生第2葉
 ③葉色値: 葉色計 (SPAD501) での測定値
 ④慣行育苗: 12cmポリポット
 ⑤TG, PA: パーミキュライトの種類

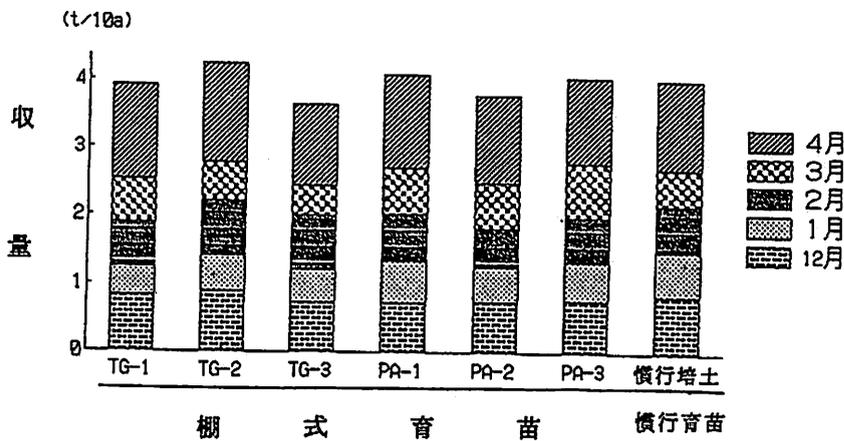


図2 棚式育苗における育苗培土の違いと収量 (平成4年)

[その他]

研究課題名: イチゴの棚式育苗システムの開発

予算区分: 経常

研究期間: 平成4年度 (平成3~4年)

研究担当者: 伏原 肇、林 三徳、柴戸靖志

発表論文名: 平成3~4年度園芸研究所野菜花き部野菜品種研究室試験成績書